

平成22年度  
研究紀要

平成 21・22 年度  
広島県発達障害授業改善推進事業指定校

「ともに学び  
響きあう授業」の創造

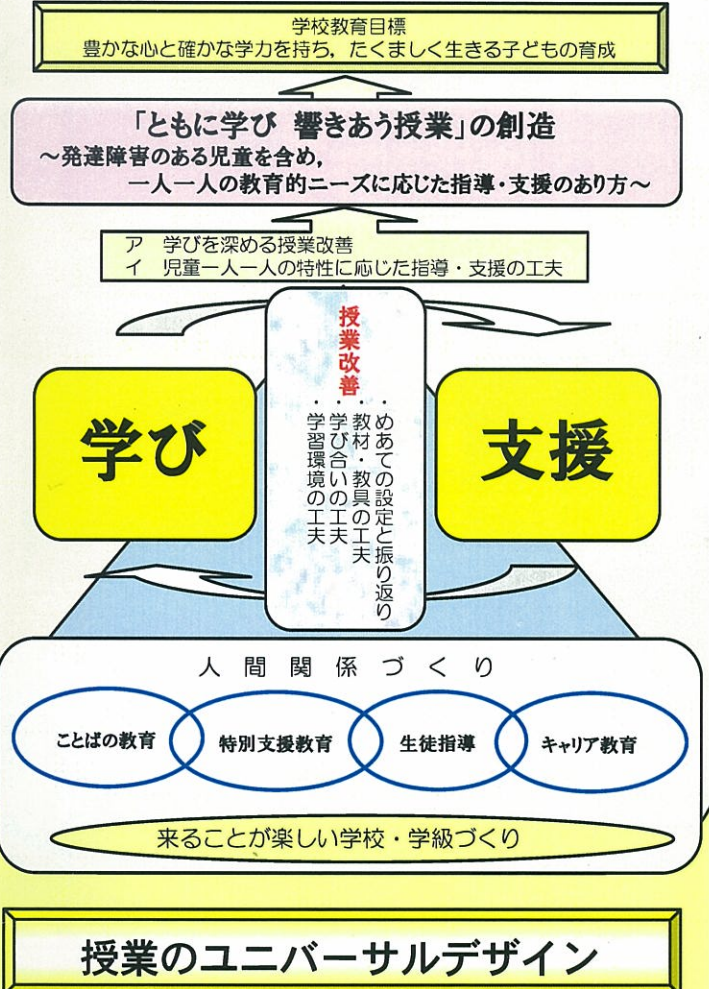
～発達障害のある児童を含め、  
一人一人の教育的ニーズに応じた  
指導・支援のあり方～



広島県三次市立十日市小学校  
〒728-0012 広島県三次市十日市中四丁目9番1号  
Tel : (0824)62-2217 Fax : (0824)63-1921  
E-mail : tohkaichi-e@city.miyoshi.hiroshima.jp  
HP : <http://www.tokaichi-e.hiroshima.-c.ed.jp>

平成 22 年 11 月 10 日 (水)  
三次市立十日市小学校

## 【研究構想図】



## 授業のユニバーサルデザイン

### (1) 通常の学級における授業で大切にしていること

- ①明確なめあての設定(軸のある授業・子どもに期待する活動の吟味)
- ②児童の困り感に気づく(正確な見取りとアセスメント)
- ③だれもが「わかった」「できた」「次が楽しみ」という授業
- ④児童実態に合わせた教材・教具の工夫
- ⑤効果的な学び合いの工夫
- ⑥学習(教室)環境の調整

特別な支援を必要とする児童が「わかる授業・できる授業」は、すべての児童にとっても「わかる授業・できる授業」である。

特別な支援を必要とする児童には、「ないと困る」支援であり、どの児童にも、「あると効果的な」支援である。

## 実態把握

多面的に把握

## 指導・支援へ

### (1) Q-Uの実施(5月・11月)

- 児童個々の学級生活における満足感や、学校生活における意欲の把握
- 児童の満足感や意欲の分布状況による学級集団の雰囲気や成熟状態の確認
- 学級や学校生活における満足感や意欲に関しての、児童の学級内での位置の把握

結果の分析と解決方策の決定(学年会を中心に)

「要支援群」に位置する児童や、気になる児童について

### (2) 個別の教育支援計画の作成 【広大モデル最新版を使って】

示されている例から困り感・支援を焦点化

#### 実態把握チェック

活動(困っていること)の例	心身機能・身体構造の特徴の例
具体的な参加の制約の例	環境の要因の例
個人要因(活用できる長所)の例	

#### 支援方法チェック

学習活動の支援の手立ての例
生活(行動・関係)の支援の手立ての例

作成の意義

- 情報を整理
- 困り感や支援方策の焦点化
- いろいろな支援方法への気づき
- 多面的なとらえ
- 情報の共有化
- つなぐための記録

### (2) 児童の困り感に気づく

#### 児童の実態把握

- 学習中や生活場面
- 学習内容
- 教科に対する意識

個々の児童への適切な指導及び支援の手がかり

学ぶ楽しさや充実感のある授業展開

#### きめ細かな整理と分析

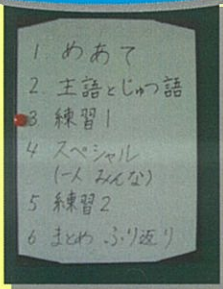
- 気づく
- 背景を探る
- 願いを知る

#### ～実態把握のポイント～

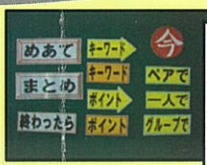
- つまづいている領域や課題を発見
- どこまで習得しているかを把握
- 行動している時の様子を把握
- つまづいている要因を推定

できないことも、できないなりの理由がある。その背景を探り、効果的な支援を行っていくことが重要である。

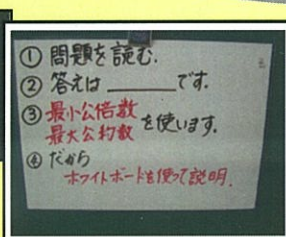
見通しの提示



視覚支援カードの活用



発表モデルの提示



掲示の工夫

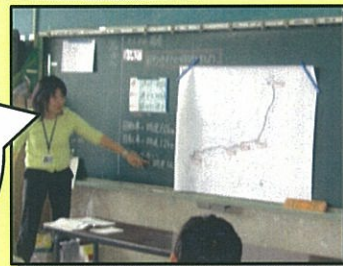


1時間の流れが分かる板書

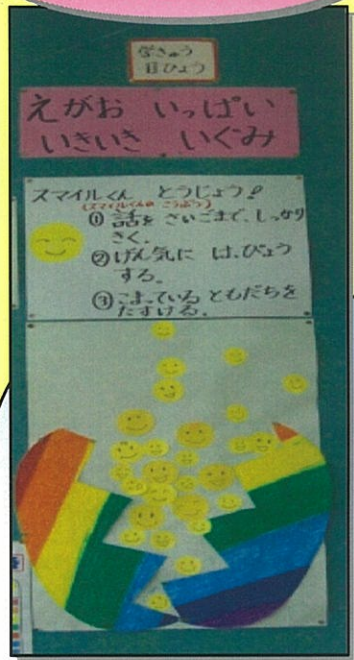


生活と結び付けた問題

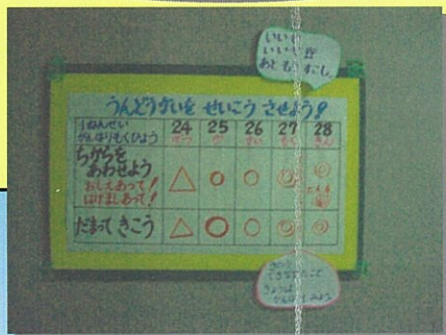
時速60kmの自動車で、三本から大隈まで行くときにかかる時間を求めましょう。



学級目標・ルールを明確に



達成感・所属感を 実感させる指導・支援



教室環境づくり



学校が 変わる

研究の方向性

学力向上

子どもが 変わる

- ◆ わかる授業の創造
- ◆ 学習規律の徹底
- ◆ 居心地のよい教室空間
- ◆ 安心して学べる学習環境
- ◆ 承認しあう学級づくり
- ◆ 友だちとの学びの共有

学級経営・授業づくり

自己肯定感・自己存在感の高まり

授業が 変わる

満足感・達成感

学級経営・授業のユニバーサルデザイン

教師が 変わる

- ◆ 明確なめあてと評価を大切に
- ◆ 子どもの声を聴き、つなぐ教師
- ◆ 学級を開く教師

「できた。」  
「分かった。」  
「もっと知りたい。」  
「次が楽しみだ。」

## 授業改善

(1) 「授業についての自己チェックリスト」を使って

- 授業のユニバーサルデザインを意識する。
- 自分自身の課題をつかみ授業改善に活かす。

(2) 自主公開

- 自分の課題を持ち、改善を図った授業公開
- 「授業のチェックリスト」の項目を意識した学習展開
- 児童が相互に「かかわり合う」ことを通して、より深い学びが進められる学習展開



### 協議の柱

- 子どもに期待していた活動は何だったのか。
- 教えたかったことを子どもは学んでいたか。
- そのための支援は適切だったか。

(3) 事後協議会

- 児童の事実から児童の学びを協議
- 児童を見る目を鍛え、授業づくりの手がかりを探る。

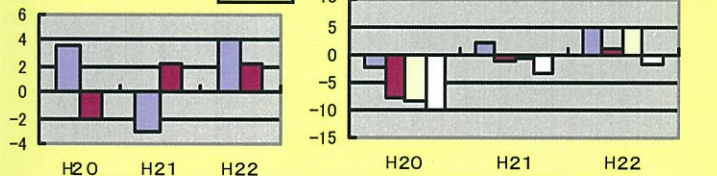
## 成果と課題

「基礎・基本」定着状況  
調査結果(県平均との差)

■ 国語  
■ 算数

全国学力・学習状況調査結果  
全国平均との差

■ 国語A ■ 国語B  
■ 算数A ■ 算数B



### 【成果】

- 各学力調査において、ここ3年間の結果を経年比較してみると、徐々に学力が向上してきているといえる。授業のユニバーサルデザインを意識した取組みは、様々な児童にとって、確かな学力の定着につながっている。
- 「授業についての自己チェックリスト」を取り入れ、定期的に自分自身を振り返ることで、一人一人が授業のユニバーサルデザインを意識し、「学び」と「支援」を両輪とした授業改善に取り組むことができています。
- 子どもの側に立った授業の見方をするることによって、授業者は、子どもの学び(「子どもにどのような学びがあったのか」「どんな支援があったから学びは成立したのか」)を見る目(=授業を観る目)が培われてきた。
- 児童一人一人の教育的ニーズを把握するために、Q-Uと個別支援計画の作成に取り組んだ。集団へのアプローチ、個へのアプローチの方策を学年グループを中心として全職員で考え、指導・支援につなげていくことができた。

### 【課題】

- ◆ さらに、一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援につなげていくことができるように、Q-U・「授業についてのチェックリスト」の活用の方法を改善する。
- ◆ 年度初めに、構成的グループエンカウンター 워크ササイズに関わる研修を年間計画に位置付け、計画的に実施する必要がある。

## 授業づくり

(1) 時間の構造化

- 安心して授業に参加できるように見通しを持たせる
- 授業の流れの中で、今何が行われているのかが分かる工夫

(2) 情報伝達の工夫

- 聴覚的にだけでなく、視覚的に提示(板書・掲示物・視覚支援カード・発表のモデル・視覚に訴える導入の工夫)
- 具体的な表現に置き換える工夫

(3) 参加の促進

- 座席の工夫
- 視覚に訴える導入の工夫
- 学習形態・教材の数・生活と結び付けた問題の工夫
- 次の課題の準備

(4) 児童相互の学び合い

- 教材と児童をつなぐ
- 児童と児童をつなぐ

### 児童相互の学び合い



承認し合う  
学級づくり



構成的グループエンカウンター  
「それがあなたのいいところ」  
実施の一場面

- 「めざす児童の姿」
- ① 友だちの方を見て話をし、聴く児童
  - ② 前の児童の発言につなげて言える児童
  - ③ 「聴いてください。」という声が出せる児童
  - ④ うなずくことやつぶやくことができる児童
  - ⑤ 分からないとき、「教えて。」「分からない。」と素直に声をかけられる児童

## 学級経営

(1) 学級目標・学校行事

- 協力する場面を意図的に設定することで、達成感や所属感を実感させる指導・支援

(2) 安心感と学びの機会を保障する規律の重視

- 生活規律や学級ルールを視覚的に提示

(3) 承認し合う学級づくり

- 構成的グループエンカウンターの手法を取り入れるなど、相互理解の工夫

(4) 場の構造化・刺激量の調整

- 教室環境づくりの工夫